

# 柿炭疽病に対する P.C.P-Na の防除効果について

横 山 佐 太 正\*

YOKOYAMA, S. Effect of P.C.P-Na for the Control of Japanese Persimmon.

柿炭疽病に対する P.C.P-Na の休眠期防除効果について、1955 年行つた圃場試験結果を報告する。

## 方 法

三井郡山本村の当業者園（深山及び田島両氏所有、品種富有の成木園）において、P.C.P-Na（イハラクロン、主成分 86%、30 年 2 月鹿原農薬製品）を単用および石灰硫黄合剤と混用し、石灰硫黄合剤および水銀製剤（ウズプルン）に比較した。すべて展着剤（グラミン、1 斗 2 cc）を加用し、休眠期に 1 回（3 月 11 日）、反当 1 石各区とも 6 本宛動噴で散布、5 月 21 日新梢の発病率並びに葉害の有無を調査した。

## 成 績（第 1 表）

\* 福岡県立農業試験場

## 考 察

P.C.P-Na 0.4% の効果は石灰硫黄合剤ボーム 5. と大差ない成績を得たが、両者を混用するとやや防除効果のまさる傾向が認められた。これ等に対して水銀製剤 0.2% は、はるかに劣つた。従つて、柿炭疽病防除のための休眠期撒布剤も、やはり P.C.P-Na を石灰硫黄合剤に加用した方がよいようであるが、更に多発の条件下で試験を重ねる必要があると考える。なお葉害については成木の場合懸念がないようであるし、P.C.P-Na の濃度を 0.5% として使用すれば更に防除効果が期待出来るのではあるまいか。

第1表 柿炭疽病に対するPC.P-Naの休眠期防除試験成績

反復	A P.C.P-Na 0.4% (×250)			B 石灰硫黄合剤 ボーマ5°(×7)			C P.C.P-Na加用石灰硫黄合剤 (ボーマ5°液に0.4%加用)			D 水銀製剤0.2% (×500)		
	調査 枝数	病枝数	病枝率 (%)	調査 枝数	病枝数	病枝率 (%)	調査枝数	病枝数	病枝率 (%)	調査 枝数	病枝数	病枝率 (%)
I	315	9(9)	2.9	87	2(2)	2.3	262	7(8)	2.7	90	11(53)	12.2
II	101	4(8)	4.0	129	6(8)	4.7	128	5(5)	4.0	85	4(5)	4.7
III	114	1(3)	0.9	86	1(2)	1.2	128	0	0.0	87	2(3)	2.3
IV	68	5(15)	7.4	117	10(21)	8.8	99	7(10)	7.1	67	15(64)	22.4
V	83	1(2)	1.2	72	1(1)	1.4	58	0	0.0	20	4(6)	20.0
VI	45	2(3)	4.4	42	1(1)	2.4	81	1(3)	1.2	55	8(13)	14.5
平均			3.5			3.5			2.5			14.4

検定 (Bliss 変換):  $F_0 = 11.29^{**}$  C,B,A : D

註: 1. いづれも肉眼的の薬害は認めなかつた。 2. ( ) 内は病斑数を示す。